

筑波大学新聞

第305号

編集責任
筑波大学新聞
編集代表
福岡直樹
TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

学長予定者	「国際性の日常化」を					
ラジプロ	NHKラジオ第1公開生放送					
バレー	男子7年ぶりに優勝					
ラート	男女共に総合優勝					
柔道	被災地で子供達に指導					
附属病院	新棟「けやき棟」完成					
	11	10	9	8	3	2
	ミニ特集					5
	筑波大学発 スマートフォンアプリ特集					
	特集					6,7
	退職教員インタビュー 研究人生の歩み					

学長選考会議

学長予定者に永田教授 山田現学長の意向継ぐ

学長選考会議が1月29日に開かれ、永田恭介教授(医学部)を学長予定者に決定した。任期は4月1日から2年間。

永田教授は現在59歳。社会環境医学専攻長や生命システム医学専攻長などを兼任し、現在は学長特別補佐として学長補佐室長を務めている。

永田教授は「教育の実質化の推進と学生支援の充実」「研究大学院大学として、当面教員の研究や論文指導などに支障が出ないよう調整が必要となっている。」

国立学校施設の耐震化のための政府予算(約43億円)が認められ、実施する。本学の場合、例年は国の予算の関係で改修工事は年に1、2件しか行えず、耐震強度が低くてもなかなか工事を進められなかった。だが、今回の政府の予算がついたため、6棟が急ぎ、改修工事が進められることになった。

現在、各支援室と各棟の代表、施設部が、研究室の移転先などを調整している。工事の青写真は今月末までに描かれる予定だが、研究室の移転先がまだ未定なことに対し、飯村信雄・施設企画課副課長は「移転先としては、全学の共同利用スペースや学外施設を借用することも検討している」と話している。

一方、工事の目的について飯村副課長は「安心・安全を目指した施設にする。だが、耐震改修をしたからといって、地震で壁にひびが入らないわけではない。地震が起きたら、教員などの指示に従い、落ち着いた行動をとることが大切」と話している。

永田教授は29日、学長就任に関する会見を行ったが、この後、本紙の単独取材に応じ、「山田信博学長の意向を引き継ぎ、本学の価値や役割を社会に広く知らしめていきたい」と語り、(2面に関連記事)

代表、施設部が、研究室の移転先などを調整している。工事の青写真は今月末までに描かれる予定だが、研究室の移転先がまだ未定なことに対し、飯村信雄・施設企画課副課長は「移転先としては、全学の共同利用スペースや学外施設を借用することも検討している」と話している。

一方、工事の目的について飯村副課長は「安心・安全を目指した施設にする。だが、耐震改修をしたからといって、地震で壁にひびが入らないわけではない。地震が起きたら、教員などの指示に従い、落ち着いた行動をとることが大切」と話している。

お知らせ

2月28日の汎用サーバー(sakura)の全サービス終了を受け、筑波大学新聞のメールアドレスが変わります。今までのアドレスは使えなくなりますので、ご了承ください。

旧アドレス = shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
新アドレス = shinbun@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学新聞では皆様の声を募集しております。取材してほしいイベントや団体、オピニオン面の投稿などは、こちらのアドレスで受け付けております。

大学ラグビー選手権大会 国立大初の準優勝



撮影=平嶋健人/本紙記者

後半33分、トライを狙う本学選手達

後半持ち前の「粘り」見せる

【国立競技場で鈴木拓也】人文科学類1年、市原ひかり】社会工学類2年 大学日本一を決める第49回全国大学ラグビー選手権大会の決勝が1月13日、国立競技場(東京都新宿区)で行われ、本学は史上初の大会4連覇を目指す帝京大と対戦。22-39で惜しくも敗れた。だが国立大学としては初の準優勝を果たし、第50回日本ラグビー選手権大会(2月2日開幕)の出場権を獲得した。本学は1月2日に行われた準決勝で東海大と対戦、後半16点差を跳ね返す粘りを見せ、28-26で初の決勝進出を決めていた。(8、9面に関連記事)

自転車にICタグ導入

本学で検討 全国初の実施に期待

学内の自転車問題を解決するために、本学で来年度中をめどにICタグを用いた自転車登録制の実施を検討していることが、1月31日までに分かった。ICタグを使えば簡単に自転車の所有者が特定でき、自動的にメールなどで警告できるため、駐輪マナー向上や盗難防止などの効果が期待される。実現すれば全国初のICタグを用いた自転車登録制の実施例になる。(鈴木拓也)人文科学類1年

本学ではほとんどの学生が自転車を利用しており、学内には少なくとも5000台がある。だが点検や災害時の避難経路の確保など、自転車利用に伴うさまざまな問題が生じている。学内には少なくとも5000台がある。だが点検や災害時の避難経路の確保など、自転車利用に伴うさまざまな問題が生じている。

前半8分に帝京大に先制のトライを許す苦しい立ち上がりとなった。11分には片桐康策(体育専3年)がペナルティゴールを決め、流れをつかみかけたが、帝京の堅い守りを崩せないまま。ミスも目立ち、19分にはサイドから攻め込まれると一気にトライを奪われ、3-15と引き離された。だが、34分、俊足の福岡堅樹(情報1年)が中盤でパスをもらって、前に蹴ったボールを自分で取りそのままとトライ。続けて片桐がゴールを決め10-22で前半を折り返した。

後半、風下に立つ不利な状況もあり、10分、16分、30分と立て続けに3つのトライを許す厳しい展開となった。このため一度は10-39と引き離されたが、本学は準決勝でも見せた持ち前の「粘り」をこどもで発揮。34分に彦坂匡克(体育専4年)が、また試合終了間際の39分に内田啓介(同3年)がトライを決めるなど、最後まで国立競技場を沸かせた。

本学は昨年の本大会で初の準決勝進出を果たしたが、準決勝ではやはり帝京大と対戦、3-29で敗退している。

試合後、就任8年目での準優勝に導いた古川拓生監督(体育系講師)は選手への頑張りや誇りに思うと選手をねぎらう一方で、「昨年に続き、また1年間の宿題を帝京大さんに頂いたと、来年の「大学日本一」達成を視野にいった。一方、主将の内田啓太(体育専4年)は「1年間帝京大に勝つためのプランを作ってきたが、また考え直さな」といっている。庄倒された」と語った。

6建物耐震改修工事

研究室の移転先に不安

人文社会科学系棟など本学の6建物で、耐震・老朽化対策のための改修工事が4月をめどに始まることになった。耐震強度が低い建物のうち、開学以来、未改修の人文社会科学系棟、理科系A棟、生物・農林学系C棟、自然系学系C棟、医学系学系棟、2B棟の6棟が対象。人文社会科学系棟、医学系学系棟は建物部分を3部分に分け、1年ごとに各部分を改修していく計画。2B棟は建物部分を2部分に分け、2年間で工事を終了する計画だ。だが、研究室などの移転先はまだ決まっておらず、当面教員の研究や論文指導などに支障が出ないよう調整が必要となっている。

国立学校施設の耐震化のための政府予算(約43億円)が認められ、実施する。本学の場合、例年は国の予算の関係で改修工事は年に1、2件しか行えず、耐震強度が低くてもなかなか工事を進められなかった。だが、今回の政府の予算がついたため、6棟が急ぎ、改修工事が進められることになった。

現在、各支援室と各棟の代表、施設部が、研究室の移転先などを調整している。工事の青写真は今月末までに描かれる予定だが、研究室の移転先がまだ未定なことに対し、飯村信雄・施設企画課副課長は「移転先としては、全学の共同利用スペースや学外施設を借用することも検討している」と話している。

一方、工事の目的について飯村副課長は「安心・安全を目指した施設にする。だが、耐震改修をしたからといって、地震で壁にひびが入らないわけではない。地震が起きたら、教員などの指示に従い、落ち着いた行動をとることが大切」と話している。

代表、施設部が、研究室の移転先などを調整している。工事の青写真は今月末までに描かれる予定だが、研究室の移転先がまだ未定なことに対し、飯村信雄・施設企画課副課長は「移転先としては、全学の共同利用スペースや学外施設を借用することも検討している」と話している。

一方、工事の目的について飯村副課長は「安心・安全を目指した施設にする。だが、耐震改修をしたからといって、地震で壁にひびが入らないわけではない。地震が起きたら、教員などの指示に従い、落ち着いた行動をとることが大切」と話している。



さまざまな種類のICタグ。コイン大のタグもある(右左)

ICタグII電波をうけて動く小型の電子装置の一つで個別番号などの情報が内蔵されている。

20歳の記念に父親から金色のものをもらって幸せになれる。母からそんな話を聞いたことがある。その言葉通り、成人式の日、金のネックレスを父が贈ってくれた。祖母二人には晴れ着も用意してもらった。それに身を包み、ネックレスを付けて成人式会場へと向かった。▼「おとなになったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます」というのが成人の日。価値や役割を社会に広く知らしめていきたい」と語り、(2面に関連記事)

といて、地震で壁にひびが入らないわけではない。地震が起きたら、教員などの指示に従い、落ち着いた行動をとることが大切」と話している。

永田恭介教授 記者会見

「国際性の日常化」を



記者会見に応じる永田教授

学生に「自立性」期待

4月から新たな学長として本学の舵を取ることになる永田恭介教授（医学医療系）。同教授が本学に提出した所信表明によると、今後2年間の任期で、主に次の4課題について積極的に取り組むとしている。

第1には「教育の実質化の推進と学生支援の充実」

だ。大学で学んだことが、実際の社会でより有効に活用できるような体制作りを目指すもので、全学の学生が共通して受けられる科目や、語学などの教養教育を充実させていく方針だ。また、成績評価の基準を、海外の大学のそれに近づけ、学生がより留学しやすくなる環境づくりを行いたいと考えている。学外の研究組織が本学と共同で研究しやすくなったり、国内外の大学と本学が連携しやすくなる体制も作る。

永田教授は学生が「自立性」を身に付けることも期待している。そのために学生を経済、生活、就職の面から支援したり、学生が海外で活動しやすい環境を整備していくという。

第2には「研究大学院大

学としての研究力の向上

だ。永田教授は研究組織の強化と共に、研究支援のシステムの大幅な革新も検討。研究組織の強化で、大規模で長期的、計画的な研究を推進できる。また、研究に必要な予算などを、研究実績に基づいて配分することで、研究力の向上を図りたい考えたという。

第3には「社会・国際連携の主導」がある。「国際性の日常化」をキックオフに、学生や教職員の国際的な活動を支援したいと考えて、本学の海外拠点での研究活動の推進などを通じ、海外での本学の活動をより活発にしたい考えた。

永田教授はこれらと同時に「筑波大学文化の形成」も目標に掲げており、所信表明では「本学で学ぶ学生や働く職員が能力や特性を最大限に発揮できるような筑波大学文化を形成することによって、植物が葉緑体を持つようになった。今回ゲノムを解読した二つの藻類は、2回の細胞内共生を経ている。普通、細胞内共生によって取り込まれた真核生物の核は消失する。だがこの二つの藻類は、核がなくなる途中段階のままだ。つまり、葉緑体を獲得する過程を解明するのに適した特徴を持っていた。これらの藻類のゲノムの解読は、生物が葉緑体を獲得して植物になるまでの過程を明らかにするための基礎となる。

石田教授は「全ての生物を支える植物の進化を明らかにすることは、大きな貢献になる」と語った。

◆葉緑体⇨光合成を行う細胞小器官◆ゲ

2種類の藻類のゲノム解読 植物の進化の謎に迫る

国際共同研究チーム

葉緑体の進化の鍵を握る2つの藻類のゲノムを、石田健一郎教授（生環系）らが参画した国際共同研究チームが初めて解読した。これは、細胞内に葉緑体を

持つ植物全般の進化の過程を解明することにつながる成果だ。

葉緑体の起源は、光合成を行う原核生物のシアノバクテリア。それが真核生物

に取り込まれた後も細胞の一部として維持され、葉緑体と呼ばれるようになった。他の生物を取り込むことを細胞内共生と呼ぶが、この細胞内共生を繰り返す

ことによって、植物が葉緑体を持つようになった。今回ゲノムを解読した二つの藻類は、2回の細胞内共生を経ている。普通、細胞内共生によって取り込まれた真核生物の核は消失する。だがこの二つの藻類は、核がなくなる途中段階のままだ。つまり、葉緑体を獲得する過程を解明するのに適した特徴を持っていた。これらの藻類のゲノムの解読は、生物が葉緑体を獲得して植物になるまでの過程を明らかにするための基礎となる。



ゲノムを解読した2種類の藻類

とが最も大切だ」としている。永田教授は研究組織の強化と共に、研究支援のシステムの大幅な革新も検討。研究組織の強化で、大規模で長期的、計画的な研究を推進できる。また、研究に必要な予算などを、研究実績に基づいて配分することで、研究力の向上を図りたい考えたという。

第3には「社会・国際連携の主導」がある。「国際性の日常化」をキックオフに、学生や教職員の国際的な活動を支援したいと考えて、本学の海外拠点での研究活動の推進などを通じ、海外での本学の活動をより活発にしたい考えた。

永田教授はこれらと同時に「筑波大学文化の形成」も目標に掲げており、所信表明では「本学で学ぶ学生や働く職員が能力や特性を最大限に発揮できるような筑波大学文化を形成することによって、植物が葉緑体を持つ遺伝情報

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

ノム⇨生物の持つ遺伝情報

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

第7回「科学の芽」賞 小・中・高生が研究発表 大人顔負けの内容も

月からスタートする。本学が学生や教職員にとってより良い場所になることが期待される。

永田教授による新体制が4

とが最も大切だ」としている。永田教授は研究組織の強化と共に、研究支援のシステムの大幅な革新も検討。研究組織の強化で、大規模で長期的、計画的な研究を推進できる。また、研究に必要な予算などを、研究実績に基づいて配分することで、研究力の向上を図りたい考えたという。

第3には「社会・国際連携の主導」がある。「国際性の日常化」をキックオフに、学生や教職員の国際的な活動を支援したいと考えて、本学の海外拠点での研究活動の推進などを通じ、海外での本学の活動をより活発にしたい考えた。

永田教授はこれらと同時に「筑波大学文化の形成」も目標に掲げており、所信表明では「本学で学ぶ学生や働く職員が能力や特性を最大限に発揮できるような筑波大学文化を形成することによって、植物が葉緑体を持つ遺伝情報

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

の全体◆原核生物⇨細胞内に核を持たない生物◆真核生物⇨細胞内に核を持つ生物

高めることを目的としている。今回は過去最多の2623件の応募があり、小学生部門で10件、中学生部門で7件、高校生部門で3件の研究が「科学の芽」賞を受賞した。

発表会では、小・中学生部門が1分間、高校生部門が5分間で、それぞれの研究内容を説明した。

小学生部門では「本当に古いゆで玉子ほどむき易くなるのか」について研究した山崎公輝さん（筑波大学附属小学校6年）が4年連続の受賞となった。「家庭科の授業でゆで卵を作ったときにむき易さに違いがあり、その違いは何かと思いついて研究を始めた」と言う山崎さん。白身の硬さや白身と黄身の割合などさまざまな視点から客観的なデータを集め、考察したことが評価された。卵のおいしさについても調べたため「300個を調味料などで食べなければいけないのがつらい世代の科学への関心を

小・中・高校生を対象に優れた科学や自然現象についての研究を表彰する。朝永振一郎記念第7回「科学の芽」賞表彰式・発表会が昨年12月22日、大学会館講堂で行われた。会場には受賞者をほじめ、その家族など多くの人が訪れた。

「科学の芽」賞は、ノーベル物理学賞を受賞した本学にゆかりのある朝永振一郎博士の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を

高めることを目的としている。今回は過去最多の2623件の応募があり、小学生部門で10件、中学生部門で7件、高校生部門で3件の研究が「科学の芽」賞を受賞した。

発表会では、小・中学生部門が1分間、高校生部門が5分間で、それぞれの研究内容を説明した。

小学生部門では「本当に古いゆで玉子ほどむき易くなるのか」について研究した山崎公輝さん（筑波大学附属小学校6年）が4年連続の受賞となった。「家庭科の授業でゆで卵を作ったときにむき易さに違いがあり、その違いは何かと思いついて研究を始めた」と言う山崎さん。白身の硬さや白身と黄身の割合などさまざまな視点から客観的なデータを集め、考察したことが評価された。卵のおいしさについても調べたため「300個を調味料などで食べなければいけないのがつらい世代の科学への関心を

小・中・高校生を対象に優れた科学や自然現象についての研究を表彰する。朝永振一郎記念第7回「科学の芽」賞表彰式・発表会が昨年12月22日、大学会館講堂で行われた。会場には受賞者をほじめ、その家族など多くの人が訪れた。

「科学の芽」賞は、ノーベル物理学賞を受賞した本学にゆかりのある朝永振一郎博士の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を

高めることを目的としている。今回は過去最多の2623件の応募があり、小学生部門で10件、中学生部門で7件、高校生部門で3件の研究が「科学の芽」賞を受賞した。

発表会では、小・中学生部門が1分間、高校生部門が5分間で、それぞれの研究内容を説明した。

小学生部門では「本当に古いゆで玉子ほどむき易くなるのか」について研究した山崎公輝さん（筑波大学附属小学校6年）が4年連続の受賞となった。「家庭科の授業でゆで卵を作ったときにむき易さに違いがあり、その違いは何かと思いついて研究を始めた」と言う山崎さん。白身の硬さや白身と黄身の割合などさまざまな視点から客観的なデータを集め、考察したことが評価された。卵のおいしさについても調べたため「300個を調味料などで食べなければいけないのがつらい世代の科学への関心を

小・中・高校生を対象に優れた科学や自然現象についての研究を表彰する。朝永振一郎記念第7回「科学の芽」賞表彰式・発表会が昨年12月22日、大学会館講堂で行われた。会場には受賞者をほじめ、その家族など多くの人が訪れた。

「科学の芽」賞は、ノーベル物理学賞を受賞した本学にゆかりのある朝永振一郎博士の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を

高めることを目的としている。今回は過去最多の2623件の応募があり、小学生部門で10件、中学生部門で7件、高校生部門で3件の研究が「科学の芽」賞を受賞した。

発表会では、小・中学生部門が1分間、高校生部門が5分間で、それぞれの研究内容を説明した。

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

関節リウマチ 炎症を制御する物質発見 難病治療に大きな進歩

関節に炎症が起き、腫れて痛みが病気の関節リウマチの発症と治療効果に関わるたんばく質を発見したと松本功准教授（医学医療系）らの研究チームが昨年11月29日に発表した。関節リウマチは、30代から50代で発症する可能性が高く、原因は分かっている。日本には約70万人の患者がいるとされている。

治療には、炎症の悪化に関与するたんばく質「TNFα」や「IL-6」を制御する薬を点滴・注射する方法があるが、効果が認められない患者もいる。今回の発見が病気の根本的解明や新たな治療法の開発につながる可能性がある。

同研究チームは過去の研究からたんばく質「TIARP」に注目し、その性質を調べるために、人為的にTIARPを取り除いたマウスを用いて、関節炎についての実験を行った。実験の結果、このマウスの80%

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

また、高校生部門では、中西貴大さん（東京・武蔵高1年）が「木質燃料の質量と燃焼効率」をテーマに研究し、2度目の受賞。中西さんは再生可能エネルギーとして期待されるバイオマス燃料の一つとしてお

がくすと木質チップに注目し、それぞれの燃焼効率を調べた。燃やすとそれ自体が固まって空気が通りにくくなるためおがくすは燃えにくい。が、チップは空気の通りが良いため燃えやすい。というところを突き止めた。中西さんは「研究もいろいろと学んで人の役に立つものを作りたい」と将来の夢を語った。

新人記者募集

“今”を伝えるのは、あなた

毎週月曜日18時30分

共同研究棟 A104
TEL:029(853)6699
MAIL:shinbun@un.tsukuba.ac.jp

ロボット実証実験

ホテルの業務を支援 交流のきっかけをつくる

鈴木健嗣准教授（シス情
系）と内山俊朗講師（芸術
系）の共同研究グループ
がホテルレム秋葉原（東
京都千代田区）で人型のロ
ボットを用いた実証実験を
行っている。研究のテーマ
は「公共空間における人と
ロボットの関係のデザ
イン」。ホテルという不特
定多数の人々が行き来する
空間で、ロボットと人がど
のように関わりあうかを検
証している。

実験では、4 台のロボッ
トがホテルの業務を支援し
た。双子のロボット「ジェ
ミニ」は、エレベーターの

を与えてくれるロボットよ
りも、関心を引くというこ
とが分かった。中には 30 分
間もロボットを見ている人
もいたという。

またホテル側からは「ロ
ボットに興味を持った利用
客に話しかけられ、会話を
するきっかけになったな
どロボットに好意的な意見
が多く寄せられた。

鈴木健准教授の研究ではロ
ボットが人々の交流のきっ
かけをつくり、業務の
遂行を円滑にすることを目
指している。「ホテルの運
営に介入することになった
め不安もあったが、信頼で
きるデータを得られた。こ
れからもロボットを紹介し
た人と人との新たな関係づ
くりを模索して行きたい」と
語った。

JAXA

高橋教授提案の研究を計画 日本初 宇宙でマウスを飼育

独立行政法人宇宙航空研
究開発機構（JAXA）は
昨年 11 月、国際宇宙ステ
ーション（ISS）の日本実
験棟「きぼう」で、本学の
高橋智教授（医学医療系）
が提案した「宇宙での生き
たマウスの長期飼育実験」
を実施する計画がある、と
発表した。宇宙空間でマウ
スを用いた長期の実験が行
われるのは、日本の宇宙開
発史上初となる。

計画では、数匹のマウス
を「きぼう」内で 30 日間の
長期にわたって飼育し、生
きたまま地上に帰還させた
後、臓器や免疫への影響を
調べる。また、地上でこれ

らのマウスを繁殖させ、生
殖細胞に与える影響も調査
する予定。2015 年中の
実施を目指している。

遺伝情報も人間と近いこ
とから、医薬品の開発や、
無重力空間が人体にもたら
す影響の研究に役立つ可能
性があるとして、注目され
ている。

高橋教授は「宇宙での実
験は困難を伴うが、実験で
分かったことは将来、人類
が宇宙空間で生活する時に
役に立つ。今回の実験で、
今まで分からなかったこと
を発見したい」と意気込み
を語った。

アカペラサークル Doo-Wop

5 グループが合唱を披露 観客を楽しませる演出も

antasy 素敵な夜の
贈り物」。同サークル内
のオーディションで選ばれ
た 5 グループが出演、アカ
ペラ合唱を披露した。

アカペラは無伴奏の合唱
形態で、音楽のジャンルも
さまさま。今回は、北欧の
アカペラアーティストの歌
をカバーするグループや男
性のみのグループなどが出
演した。歌の雰囲気になら
せて幻想的な光を使用した
り、歌の合間に芝居を挟ん
だりと、観客を楽しませる
演出にもこだわった。最後
の曲が終わると、観客から
は惜しめない拍手が送られ
た。

同ライブ責任者の一人、
平野礼子さん（障害 2 年）
は「時間をかけて準備して

きたので無事に開催できて
良かった。公演後に声を掛
けられるなど、来場者の反
応も良くてうれしかった。
これからも多くの人に歌声
を届けたい」と語った。

来場した本学の女子学生
は「メンバーの美声に合わ
せて観客が手拍子をするな
ど、会場が一体となる工夫



美しい歌声を響かせる Doo-Wop のメンバー

■訃報

永井 博氏（ながい・ひ
ろし）本学名誉教授。昨年
11 月 7 日に死去、91 歳。
辻 功氏（つじ・いさお）
本学名誉教授。昨年 11 月 18
日死去、84 歳。

秋貞 雅祥氏（あきさだ・
まさよし）本学名誉教授。
昨年 12 月 5 日死去、86 歳。
吉澤 正氏（よしざわ・
ただし）本学名誉教授。昨
年 12 月 17 日死去、73 歳。

内山 喜久雄氏（うちや
ま・きくお）本学名誉教授。
昨年 12 月 20 日死去、92 歳。
志村 尚夫氏（しむら・
ひさお）図書館情報大学名
誉教授。1 月 7 日死去、82
歳。

作道 恒太郎氏（さくどう・
つねたろう）本学名誉
教授。1 月 13 日死去、84 歳。

THK に感謝状贈呈

NHK ラジオ第 1 の番組
「ラジプロ」ラジオをプロ
デュース」本選の公開生
放送が、昨年 12 月 24 日に大
学会館講堂で行われた。本
学からは THK 筑波放送協
会と野村祐一郎さん（日
3 年）が本選に出場。会場
には約 200 人が訪れた。

「ラジプロ」ラジオをプロ
デュース」とは、10 代、
20 代の若手クリエイターが
作成した 5 分間のラジオ番
組を、コンテスト形式で紹
介する NHK ラジオ第 1 の
番組。4 回目となる今回は
51 作品の応募があり、うち
7 作品が本選に出場した。

THK 筑波放送協会は
「時は風のように」という
作品で本選に臨んだ。学校
に遅刻しような状況で「5
分じゃ何もできない」とあ

きらめる主人公が、たった
5 分で魔王から世界を救う
という設定。限られた時間
を大切にすることというこ
とを、ファンタジー要素を含
めて伝えた。

最優秀賞に選ばれたのは
東北大学学友会放送研究部
の「基礎死語 A」。現代日
本で使われなくなった「死
語」を扱う番組で、今回は
「チョベリバ」という死語
を紹介した。死語の歴史や
意味、実際の会話例を淡々
と紹介するなど、非現実的
な内容が評価された。

番組の最後には、ゲスト
審査員として訪れたアイト
ルグループ「gnine」の
ライブが行われ、会場は
大いに盛り上がった。東京
都から来た男性は「大學生
が作るものとは思えないく

人々をつなぐ応援 観客に元気を送る

応援部 WINS「桐華祭」
演「桐華祭」が昨年 12 月 21
日につくばカピオホール
（つくば市竹園）で行われ
た。同公演は昨年から開催
されており、今回で 2 回目。
公演では「筑波大学応援
歌」「応援歌 Medley」な
ど全 13 演目で構成され、会
場には部員達の声や太鼓の
音が響いた。公演の休憩時
間には寸劇が行われ、部員

連の個性的なパフォーマンス
が会場の笑いを誘った。
この 1 年間で「つなぐ」を
スローガンとして活動して
きたという同部だが、観客
席を回りながら観客と一緒
にパフォーマンスする部員
達の姿からその思いが感じ
られた。応援部 WINS の
主将である関口知宏さん
（生資 3 年）は最後のあい
さつで「応援は人と人との
力のあるチャアーディング

つなぐりを作ることができ
る。来てくれた皆さんにも
そのつなぐりを感じてもら
えたらうれしいと話した。
観客の男性は「活力と気
力のあるチャアーディング
だった。お客さんに元気を
送る姿がとても良かった。
来年も、再来年も続いてほ
しい」と語った。（12 面に
関連写真）

第 6 回クラフト展
個性あふれる作品を展示
芸術専門学群の構成専攻
および人間総合科学研究科
の博士前期課程芸術専攻の
学生達による第 6 回クラフ
ト展が昨年 12 月 11 7 日に
大学会館の総合交流会館で
行われた。7 日間で 524
人が訪れ、来場者は個性あ
ふれる作品の数々を鑑賞し
た。

今回は、陶器やガラス、
木工の作品が展示された。
色鮮やかな器や、塔を模し
て作られた作品など、個性
あふれる作品が展示された。
観客は作品を見て回り、作
品を見て回る来場者達



「ラジプロ」ラジオをプロ
デュース」とは、10 代、
20 代の若手クリエイターが
作成した 5 分間のラジオ番
組を、コンテスト形式で紹
介する NHK ラジオ第 1 の
番組。4 回目となる今回は
51 作品の応募があり、うち
7 作品が本選に出場した。

THK 筑波放送協会は
「時は風のように」という
作品で本選に臨んだ。学校
に遅刻しような状況で「5
分じゃ何もできない」とあ

つなぐりを作ることができ
る。来てくれた皆さんにも
そのつなぐりを感じてもら
えたらうれしいと話した。
観客の男性は「活力と気
力のあるチャアーディング
だった。お客さんに元気を
送る姿がとても良かった。
来年も、再来年も続いてほ
しい」と語った。（12 面に
関連写真）

第 28 回 MC 展
日ごろの成果を発表
人間総合科学研究科の博
士前期課程芸術専攻で洋画
や日本画、版画を学ぶ学生
らによる展示会、第 28 回 M
C 展が昨年 12 月 6 11 日
に、茨城県つくば美術館つ
くば市吾妻で開催された。
同展は日ごろの制作や研

究の成果を学外に向けて発
表し、今後の制作の糧にす
ることを目的とした展示
会。1、2 年生ら 31 人が作
品を展示した。

展示されている作品のう
ち特に来場者の目を引きつ
けたのが、津澤峻さん（芸
術 1 年）の「over t
omorrow」という作
品。縦 256 センチ、横 548
センチの巨大なカーテンの表面
に、さまざまな色の糸で駅
をイメージした刺しゅうを
施した。駅の中を同じ方向
に歩くサラリーマンや学生
などが糸で表現されてい
る。カーテンが揺れると人
が歩いているようにも見
え、来場者はその様子に見
入っていた。

牛久市から来た女性は
「レベルの高い作品が多く、
毎年楽しみにしている。ど
の作品も個性的で、若い人
の感性ならではの作品だ。
来年も必ず訪れるつもり
だ」と話した。

作品を見て回る来場者達

筑波時評



竹中佳彦

昨年12月の衆院選では、民主党が、議席を公示前の230から57に減らす一方、自民党は294議席、公明党も31議席を獲得し、政権に復帰した。

投票率で見る衆院選

記者の声



鈴木かおる

総務省が出した「2015年までに小学校の全生徒にデジタル教科書を配備する」という方針に従い、今、出版業界は積極的に教科書のデジタル化に取り組んでいる。近い将来、子供達が端末だけを持って学校に行き、授業を受ける時代が来るのだ。だが私は全面的なデジタル化には反対だ。紙の教科書を使った時に比べ彼らの「考える力」が低下する恐れがあるからだ。紙の教科書には、デジタルにない長所が多い。今後の

ただし議席の激変は、小選挙区の結果によるものだ。小選挙区で、自民党の議席占有率は79%だが、得票率は43%にすぎない。各党の得票数を当日有権者数で割った絶対得票率では、自民党は24.7%で、前回から1.5ポイントも減らした。比例代表では、自民党の絶対得票率は16%であった。衆院選では多数の離合集散が起こったが、みんなの党、日本維新の会、日本未来の党の比例代表の絶対得票率の合計は約20%に達する。

新しいだろうか。確かに児童や生徒が端末を持って、すぐにネット上で英単語や四字熟語の意味は分かるだろうし、複雑な事象も映像つきで説明してくれるかもしれない。だがそこでは失われるものも大きいと思う。紙の教科書を使っていた我々は、勉強で問題に直面した時、まず「どうやって調べたらいいか」を考えた。親や教師に相談したり、図書館や本屋を回ったりもした。目的の辞書・辞典や参考書を見つけても、引き方や読み方がわからず、再び親や教師に聞いたこともあった。その上で、何度も何度も辞書を引き、参考書をめくった。



デジタル化が行われれば、これらの努力はほとんど必要なくなる。全て端末が教えてくれるようになるのだ。デジタル教科書は子供の「自ら考え

反射鏡

迷いながらも前に進む

都築清歌 (医学4年)

私は生来からの優柔不断だ。迷って抱え込まないほうが楽なのに、と友達から言われる。そんな私が現役の高校生だったころ、私には3つの夢があった。一つは学校の先生、もう一つは研究者、そして最後は医学生になることだ。周りに自分より年齢の低い子供が多かった。環境に育ったからか、小

教科書の電子化を問う

東京大学名誉教授の尾鍋史彦さんも電子メディアでの学習に難色を示す。液晶や電子ペーパーなど、人間にとって違和感があるメディアを用いた学習は、長期記憶の定着

う。だが、画像や動画などを入れた途端に、脳は働かなくなる(話す)日経パソコン「教育とIT」112012年7月20日付)。文字としての言



今月のテーマ 受験期の思い出

だが3つ目の夢が自分の中で現実感を帯びるのには時間がかった。なぜなら急に医学部に行きたいと思った明確な理由が分からなかったからだ。「小児ゼンゼン」を診てくれた受け持ち医に感謝しているから「病気で困っている人を助けたいから」……。医学部を志望する周りの友達に話を聞くと、皆理由があるような気がした。病気以外なら困った人を助ける方法は他にもある。「なんで私は医学部なのだろう」と自問自答する日々が続き、結論が出ないまま結局現役の時

受験を支えた母の味

島田文 (芸専2年)

受験生だった私の朝はホットミルクティーで始まっていた。思い出というほどではないけれど、私が受験期を思い返した時、一番始めに頭に浮かぶのは、何となくもホットミルクティーなのです。高校に入学したばかりの私は、夜遅くまで勉強して不健康極まりない生活を送っていました。ちなみに中学のときまでははっちり8時間寝ていたのに、私の衰退ぶりは目に見えてひどかったと思います。高校1年生の冬、見かねた母に「朝型にしよう」と提案、というよりも強制されてその日から朝5時に叩き起こされるという生活が始まりました。何十年も夜型だった母が、私のために毎朝5時前に起きて起してくれているのには、当時の私は嫌々起きていました。それでも起きるといつ

もホットミルクティーが用意されていて、朝から仕事をしている母がいて、それを見てやっとなんか思いつくと思えたのでした。励まし合える友達はいませんでした。自分の志望校(もちろん筑波大)に迷いはありませんでしたが、同じ志望校の知り合いが一人もいなくて心細かったことを覚えています。勉強を応援してくれるのは母、デッサンを批評してくれるのも母

次号のテーマは ふるさとです

投稿募集

みなさまからのご意見をお待ちしております。

TEL

029-853-6600

連絡先

shinbun@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学発！スマートフォンアプリ

手軽に健康管理

親元を離れた一人暮らしでは、野菜が足りなかったり、肉類を食べ過ぎてしまったりと、生活はどうしても偏りがちになってしまふもの。そんな大学生にぴったりの、気軽に食生活のチェックができる「Balance-Ap」というアプリだ。本学大学院の運動栄養学研究室に所属す



る角谷雄哉さん(体科1年)を始め、5人の本学大学院生が作成した。同アプリは、食生活のバランスをチェックするもの。主食、主菜、副菜、果物、乳製品などの項目に分かれており、1週間で食べた回数と量から、その週の栄養バランスを確認できる。角谷さんは「他の食生活チェックアプリと違い、1週間に一度の確認で済む。毎食どこをどのくらい食べたかをいちいち記入せずに済む」と話す。使い方は簡単。例えばごはんや麺類などの主食な

お菓子などを食べた回数を同様に入力する。入力後に栄養バランスが5角形のグラフで表れる。さらに、とりすぎに気を付けるべき脂質、塩分、糖分の摂取量をOKの3段階で評価する。アドバイスも表示され、自分の食べた量と回数を簡単に入力する。入力後に栄養バランスが5角形のグラフで表れる。さらに、とりすぎに気を付けるべき脂質、塩分、糖分の摂取量をOKの3段階で評価する。アドバイスも表示され、自分の食べた量と回数を簡単に入力する。入力後に栄養バランスが5角形のグラフで表れる。さらに、とりすぎに気を付けるべき脂質、塩分、糖分の摂取量をOKの3段階で評価する。アドバイスも表示され、自分の



ら、1回の食事で食べる量を普通大盛り、普通2杯、大盛り2杯などから選択し、1週間でその量を何回食べたかを選択する。主食、主菜、副菜、果物、乳製品、そのほかの項目でも同じことを行う。その後、揚げ物やファストフード、甘いお菓子などを食べた回数を同様に入力する。入力後に栄養バランスが5角形のグラフで表れる。さらに、とりすぎに気を付けるべき脂質、塩分、糖分の摂取量をOKの3段階で評価する。アドバイスも表示され、自分の食べた量と回数を簡単に入力する。入力後に栄養バランスが5角形のグラフで表れる。さらに、とりすぎに気を付けるべき脂質、塩分、糖分の摂取量をOKの3段階で評価する。アドバイスも表示され、自分の

スマホをより使いやすく

Android携帯では、アプリをたくさん入れていたり、アプリを終了しな思っている起動状態が続くなどして、スマホの電池の消耗が早くなるとい問題がある。アプリの削除方法が分かりづらく、どのアプリを削除すればいいかの判断も難しい。これを解決するのが「ぼく、スマホ」というアプリだ。同アプリは、電池消費量、容量、使用度、人気度でアプリをチェック。スマホ内の不要なアプリを削除したり、起動したままのアプリを完全に終了することを手助けする。



ていたり、アプリを終了しな思っている起動状態が続くなどして、スマホの電池の消耗が早くなるとい問題がある。アプリの削除方法が分かりづらく、どのアプリを削除すればいいかの判断も難しい。これを解決するのが「ぼく、スマホ」というアプリだ。同アプリは、電池消費量、容量、使用度、人気度でアプリをチェック。スマホ内の不要なアプリを削除したり、起動したままのアプリを完全に終了することを手助けする。

世間を騒がせたiPhoneの発売から早6年。スマートフォン(スマホ)の使用は年々増え続け、本学生も多くがスマホを所持している。その中で、スマホアプリケーション(アプリ)も日々増加している。今回は本学発のアプリを紹介する。(中島佳奈II人文学類、原啓一郎、平嶋健人II社会学類、市原ひかりII社会学類)



スマホの状態を教えてくれるおじさん

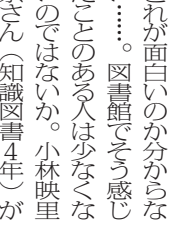
やすくすることを大事」と語る。同アプリは公開以来、3週間で10万ダウンロードを達成。現在、派生アプリの「ライトおじさん(懐中電灯)」や、「電車おじさん」などがあり、今後もおじさんのカメラやQRコード

人と交流できる図書館を

卒業研究として開発したり「ぶこめ」は図書館での「本や人との出会い」を演出してくれるアプリだ。小林さんはこのアプリの開発に当たり「書店のポップをイメージした」と語る。使い方は簡単だ。図書館の本にスマホのカメラを向け



画面に浮かび上がるコメント(右)だが、将来このアプリが普及すれば、図書館が人と人との交流の拠点となり、今より明るい空間に生まれ変わるかもしれない。



た。小林さんがあきびで、それが面白いのか分からな...。図書館でそう感じ、たこのある人は少なくな...ではないか。小林映里(知識図書4年)が卒業研究として開発したり「ぶこめ」は図書館での「本や人との出会い」を演出してくれるアプリだ。小林さんはこのアプリの開発に当たり「書店のポップをイメージした」と語る。使い方は簡単だ。図書館の本にスマホのカメラを向け



るだけで、その本に対する他人のコメントがポップのように画面上に浮かび上がる。アプリ専用開発された2次元コードを図書館の本に添付。それをカメラが認識する。またアプリを使えば、自分で本の感想や批評を書き込むことも可能。コメントを参考にしながら「同じ本」を読んだ人のコメントを見ることができ、利用者は他人のコメントをより身近に感じることができ。小林さんは「図書館は暗

うインターネットサイトは存在した。だが、「りぶこめ」のように、図書館という限られた空間で、その利用者のコメントを共有する仕組みはなかった。「りぶこめ」では、当然ながら同じ書籍でも図書館ごとにコメントの傾向も変わる。『同じ本』を読んだ人のコメントを見ることができ、利用者は他人のコメントをより身近に感じることができ。小林さんは「図書館は暗

このアプリは研究段階のため、現在のところ一般公開は考えていないという。だが、将来このアプリが普及すれば、図書館が人と人との交流の拠点となり、今より明るい空間に生まれ変わるかもしれない。

筑波コールが後押し



上＝後半 30 分、トライされた直後に円陣を組む
左下＝一歩及ばず、悔しさをにじませる
右下＝終了間際、意地の前進

大学ラグビー選手権 決勝

【国立競技場で平嶋健人Ⅱ社会学類1年、市原ひかりⅡ社会学類2年】後半30分、帝京大にトライを許し10-39。会場から落胆顔つきが変わる。「筑波行

た顔は一つもない。選手達が大声を張り上げチームを鼓舞するのが見えた。

「筑波コールが聞こえてくる。互いに声を掛け合い、気合を入れ直す。あきらめ

【国立競技場で平嶋健人Ⅱ社会学類1年、市原ひかりⅡ社会学類2年】後半30分、帝京大にトライを許し10-39。会場から落胆顔つきが変わる。「筑波行

た顔は一つもない。選手達が大声を張り上げチームを鼓舞するのが見えた。

「筑波コールが聞こえてくる。互いに声を掛け合い、気合を入れ直す。あきらめ

【国立競技場で平嶋健人Ⅱ社会学類1年、市原ひかりⅡ社会学類2年】後半30分、帝京大にトライを許し10-39。会場から落胆顔つきが変わる。「筑波行

た顔は一つもない。選手達が大声を張り上げチームを鼓舞するのが見えた。

「筑波コールが聞こえてくる。互いに声を掛け合い、気合を入れ直す。あきらめ

【国立競技場で平嶋健人Ⅱ社会学類1年、市原ひかりⅡ社会学類2年】後半30分、帝京大にトライを許し10-39。会場から落胆顔つきが変わる。「筑波行

た顔は一つもない。選手達が大声を張り上げチームを鼓舞するのが見えた。

「筑波コールが聞こえてくる。互いに声を掛け合い、気合を入れ直す。あきらめ

【国立競技場で平嶋健人Ⅱ社会学類1年、市原ひかりⅡ社会学類2年】後半30分、帝京大にトライを許し10-39。会場から落胆顔つきが変わる。「筑波行

た顔は一つもない。選手達が大声を張り上げチームを鼓舞するのが見えた。

「筑波コールが聞こえてくる。互いに声を掛け合い、気合を入れ直す。あきらめ

【国立競技場で平嶋健人Ⅱ社会学類1年、市原ひかりⅡ社会学類2年】後半30分、帝京大にトライを許し10-39。会場から落胆顔つきが変わる。「筑波行

た顔は一つもない。選手達が大声を張り上げチームを鼓舞するのが見えた。

「筑波コールが聞こえてくる。互いに声を掛け合い、気合を入れ直す。あきらめ

【国立競技場で平嶋健人Ⅱ社会学類1年、市原ひかりⅡ社会学類2年】後半30分、帝京大にトライを許し10-39。会場から落胆顔つきが変わる。「筑波行

た顔は一つもない。選手達が大声を張り上げチームを鼓舞するのが見えた。

「筑波コールが聞こえてくる。互いに声を掛け合い、気合を入れ直す。あきらめ

【国立競技場で平嶋健人Ⅱ社会学類1年、市原ひかりⅡ社会学類2年】後半30分、帝京大にトライを許し10-39。会場から落胆顔つきが変わる。「筑波行

た顔は一つもない。選手達が大声を張り上げチームを鼓舞するのが見えた。

「筑波コールが聞こえてくる。互いに声を掛け合い、気合を入れ直す。あきらめ

【国立競技場で平嶋健人Ⅱ社会学類1年、市原ひかりⅡ社会学類2年】後半30分、帝京大にトライを許し10-39。会場から落胆顔つきが変わる。「筑波行

た顔は一つもない。選手達が大声を張り上げチームを鼓舞するのが見えた。

「筑波コールが聞こえてくる。互いに声を掛け合い、気合を入れ直す。あきらめ

【国立競技場で平嶋健人Ⅱ社会学類1年、市原ひかりⅡ社会学類2年】後半30分、帝京大にトライを許し10-39。会場から落胆顔つきが変わる。「筑波行

た顔は一つもない。選手達が大声を張り上げチームを鼓舞するのが見えた。

「筑波コールが聞こえてくる。互いに声を掛け合い、気合を入れ直す。あきらめ



提供＝男子バレーボール部
強烈なスパイクを打ち込む出未田

男子 7年ぶりに日本一 粘り強いプレーで激戦制す

【バレー】大学バレーボールの日本一を決める全日本インカレが昨年12月3-9日に、川崎市とろきアリーナ（川崎市中原区）などで行われ、男子は7年ぶり9回目の日本一に輝いた。出未田敬（体専3年）が最優秀選手（3年）がレシーブ賞、秋山

賞とベストスコアラー賞、李博（同4年）がスパイク賞、前田（同3年）がセッター賞、久原大輝（同3年）がレシーブ賞、秋山

【バレー】大学バレーボールの日本一を決める全日本インカレが昨年12月3-9日に、川崎市とろきアリーナ（川崎市中原区）などで行われ、男子は7年ぶり9回目の日本一に輝いた。出未田敬（体専3年）が最優秀選手（3年）がレシーブ賞、秋山

賞とベストスコアラー賞、李博（同4年）がスパイク賞、前田（同3年）がセッター賞、久原大輝（同3年）がレシーブ賞、秋山

【バレー】大学バレーボールの日本一を決める全日本インカレが昨年12月3-9日に、川崎市とろきアリーナ（川崎市中原区）などで行われ、男子は7年ぶり9回目の日本一に輝いた。出未田敬（体専3年）が最優秀選手（3年）がレシーブ賞、秋山

賞とベストスコアラー賞、李博（同4年）がスパイク賞、前田（同3年）がセッター賞、久原大輝（同3年）がレシーブ賞、秋山

バスケット 女子 初の8強入り 素早い攻撃で得点

【バスケット】学生や社会人団体が参加する全日本バスケットボール選手権大会が1月14日に代々木競技場（東京都渋谷区）などで行われた。男子はベスト16、女子はベスト8入りを果たした。

【バスケット】学生や社会人団体が参加する全日本バスケットボール選手権大会が1月14日に代々木競技場（東京都渋谷区）などで行われた。男子はベスト16、女子はベスト8入りを果たした。

【バスケット】学生や社会人団体が参加する全日本バスケットボール選手権大会が1月14日に代々木競技場（東京都渋谷区）などで行われた。男子はベスト16、女子はベスト8入りを果たした。

【バスケット】学生や社会人団体が参加する全日本バスケットボール選手権大会が1月14日に代々木競技場（東京都渋谷区）などで行われた。男子はベスト16、女子はベスト8入りを果たした。

女子 本学が表彰台を独占 バドミントン

【バドミントン】全日本教育系学生バドミントン選手権大会が昨年12月20-22日にかけて葛飾区総合スポーツセンター（東京都葛飾区）で行われた。教育系大学の学生や、教職課程を履修中または履修予定の学生が出場する大会で、日本教職員バドミントン連盟が主催した。女子シングルスでは奥幸那（体専1年）が優勝した。第66回全日本総合バドミントン選手権大会が昨年12月21-22日にかけて、江坂テニスセンター（大阪府吹田市）で開催され、女子シングルスで菅村恵里香（体専2年）が優勝した。

【バドミントン】全日本教育系学生バドミントン選手権大会が昨年12月20-22日にかけて葛飾区総合スポーツセンター（東京都葛飾区）で行われた。教育系大学の学生や、教職課程を履修中または履修予定の学生が出場する大会で、日本教職員バドミントン連盟が主催した。女子シングルスでは奥幸那（体専1年）が優勝した。第66回全日本総合バドミントン選手権大会が昨年12月21-22日にかけて、江坂テニスセンター（大阪府吹田市）で開催され、女子シングルスで菅村恵里香（体専2年）が優勝した。

テニス 菅村が優勝 女子ダブルスは力及ばず

【テニス】平成24年度全日本学生室内テニス選手権大会が昨年12月21-22日にかけて、江坂テニスセンター（大阪府吹田市）で開催され、女子シングルスで菅村恵里香（体専2年）が優勝した。

【テニス】平成24年度全日本学生室内テニス選手権大会が昨年12月21-22日にかけて、江坂テニスセンター（大阪府吹田市）で開催され、女子シングルスで菅村恵里香（体専2年）が優勝した。

観戦記

【観戦記】昨年の本大会、初の準決勝進出を果たした本学は、帝京大に3-29と、一つもトライを奪つことができなかった。そして、そこから大学日本一へ「挑戦」の1年が始まった。

【観戦記】昨年の本大会、初の準決勝進出を果たした本学は、帝京大に3-29と、一つもトライを奪つことができなかった。そして、そこから大学日本一へ「挑戦」の1年が始まった。

【観戦記】昨年の本大会、初の準決勝進出を果たした本学は、帝京大に3-29と、一つもトライを奪つことができなかった。そして、そこから大学日本一へ「挑戦」の1年が始まった。

【観戦記】昨年の本大会、初の準決勝進出を果たした本学は、帝京大に3-29と、一つもトライを奪つことができなかった。そして、そこから大学日本一へ「挑戦」の1年が始まった。



ユタ州立大学
(アメリカ)

佐々木拓海

アメリカと聞いて思い出す都市は、太陽がサンサンと降り注ぐ天使の町・ロサンゼルスや、世界一のリゾート・マイアミそして、世界の中心巨大都市・ニューヨークかもしれない。

そんな誰もがあこがれるような大都市とは全く関係のない極小都市、ユタ州ローガンにあるユタ州立大学で勉学に励んでいるのは私、佐々木拓海。

「そんな誰もがあこがれるような大都市とは全く関係のない極小都市、ユタ州ローガンにあるユタ州立大学で勉学に励んでいるのは私、佐々木拓海。」

自ら挑戦し、「非日常」をつくる

終わるころには留学生生活に退屈さを感じていた。私の留学期間も残り半年となったが、陽気なアメリカ人たちの「恥を怖れない姿勢」を見習い、自ら非日常を作り出して実りあるものにしたいと思う。(生物資源学類3年)



パーティ前に仲間と(中央が佐々木さん)

「らんぶ」交差点で事故 安全確認の徹底を 学生にマナー順守求める

昨年12月4日15時ごろ、つくば市天久保3丁目にあ



トラックが衝突し、大破した「らんぶ」

る大学公園南の交差点で、本学生の運転する乗用車が交差点を右折しようとしたところ、対向車線から直進してきた清掃車と接触。避けてよとした清掃車が交差点近くの喫茶店「らんぶ」に突っ込んだ。負傷者はなかったが、「らんぶ」は道路に面した客席付近が大破した。つくば中央署への取材では、一般的にはこのような事故の場合、交差点を曲がろうとする車両にまず第一の注意義務があるという、乗用車側が安全確認を怠ったことが事故原因とみられる。

同署への取材によると、昨年、同署の管轄内で発生した交通事故件数は963件。そのうち追突事故が400件以上と最も多く、次いで今回のような、交差点などでの出会い頭の事故が約250件あったという。県内での交通事故総数は約1万5000件だった。

同署の入江邦夫交通課長は交通事故の主原因として、①前方不注意②安全確認③ちょっとした油断の3つを挙げ、注意を呼びかけている。これとは別に同課長は本学生に対し、「自転車に乗る学生にも多く、無灯火や、音楽を聞きながらの運転なども見られ、非常に危険」と交通ルールやマナーの順守も求めている。



身ぶりをまじえ、説明する鈴木助教

「(保健管理センター・人間系)が異文化での生活に適應することの難しさやストレスについて話し、タイムマネジメントの重要性を強調した。」

続いて鈴木華子助教(留学生センター・人社系)が、時間をうまく活用できない理由を「技術的要因」「変えられない現実」「心理的要因」という3つの観点から述べた。特に「やるが多すぎて覚えられない」「非現実なまでに予定を詰める」といった「技術的要因」には多くの参加者が共感を示した。

難民交流会

日本の難民問題を紹介 難民の人々との議論も

日本にいる難民と交流するイベント「あなたの一歩で世界が広がる」CLOVER 難民交流会 はつくば市内外から約40人

が今後発展するにはどうすればいいか、という質問に「参加するまでにハードルがあるため、もっと気軽に参加できるようにすべき」「二度参加すれば敷居が低くなるが、活動に必要となる人もいいる。運営者は活動の意義を伝える工夫が必要だ」「T・A・Cの存在を、地域にもっと発信していくべきだ」などの意見が挙がった。

お菓子を囲んで気軽に宇宙について話すことを目的に昨年5月に開催された約100人以上が訪れた。代表の鈴木裕行さん(数物1年)は「宇宙のロマンを映画のうち、最も学生の思考力やイベントの企画力向上につながる、と評価されたものに對し、表彰が行われた。」

最優秀賞には「Astronomy Cafe 宇宙を語る場所」が選ばれた。お茶や

と、東日本入国管理センター(茨城県牛久市)の収容者約20人が訪れた。イベントを主催した本学の学生団体「CLOVER」は、同センターの収容者への面会や、難民申請のための書類の翻訳などを行っている。

前回は、国連UNHCR協会が作成した世界各国の難民を紹介するビデオを視聴。続いて、同団体のメンバーによる難民問題の紹介と劇が披露された。団体のメンバーはそれぞれ収容者、入国管理局の役員などに、難民認定や同センターでの生活の厳しさ、同団体の収容所での面会の様子などを演じた。

後半は、収容者の人々と来場者がグループをつくり、ディスカッションを行った。収容者達は、「(11面に

東北3県柔道指導キャラバン

被災地で柔道部が子供達に指導



子供と試合風の練習をする平岡(左)

本学の柔道部の学生と教職員合わせて8人が、1月13日に東日本大震災の被災地である岩手県大船渡市の

ロンドン五輪銀の平岡も参加

グラム「東北3県柔道指導キャラバン」の一環で、幼稚園から高校生まで約70人の子供が参加した。

昨年のロンドン五輪60kg級銀メダリストの平岡拓晃(体育2年)も柔道指導を行い、子供達と試合風の練習などを行った。子供達も真剣に練習に取り組み、いきいきとした表情を見せた。

現地の関係者は、「田舎にいて一流の選手の技を生で見る機会がないので大変ありがたい」と語り、子供達の保護者の中には「将来、筑波大学に子供を入学させたい」という人もいた。

つくばアクションプロジェクト

1年間の活動を報告 今後の発展も見据える

「つくばアクションプロジェクト」は約70人が訪れた。第一部では中部大学学生2012 やりたいことで磨く『人材力』が、昨年12月12日に、大学会館国際会議室で開かれた。つくばアクションプロジェクトの1年間の活動報告会で、会場に

が多様な人間関係の中でさまざまな体験を通して大學生生活を輝かせることができる活動だ」と話した。

第二部では今年度上半期にT・A・Cで行われた企画のうち、最も学生の思考力やイベントの企画力向上につながる、と評価されたものに對し、表彰が行われた。

最優秀賞には「Astronomy Cafe 宇宙を語る場所」が選ばれた。お茶や

と、東日本入国管理センター(茨城県牛久市)の収容者約20人が訪れた。イベントを主催した本学の学生団体「CLOVER」は、同センターの収容者への面会や、難民申請のための書類の翻訳などを行っている。



「先導的研究者体験プログラム」とは、文部科学省が行っている「理数学生応援プロジェクト」の一つで、理工農系の学群1-3年生が自身の研究成果を発表する「先導的研究者体験プログラム」研究発表会が、1月21日に3A棟204などで行われた。

「先導的研究者体験プログラム」とは、文部科学省が行っている「理数学生応援プロジェクト」の一つで、理工農系の学群1-3年生が自身の研究成果を発表する「先導的研究者体験プログラム」研究発表会が、1月21日に3A棟204などで行われた。

学群1-3年生が研究発表

研究を始めるきっかけに

理工農系の学群1-3年生が自身の研究成果を発表する「先導的研究者体験プログラム」研究発表会が、1月21日に3A棟204などで行われた。

「先導的研究者体験プログラム」とは、文部科学省が行っている「理数学生応援プロジェクト」の一つで、理工農系の学群1-3年生が自身の研究成果を発表する「先導的研究者体験プログラム」研究発表会が、1月21日に3A棟204などで行われた。

市民シンポジウム

つくばの建築の魅力伝える 鶴澤教授が講演

NPO法人つくば建築研究会が主催する市民シンポジウム「つくばを創る・つくばで生きる」が昨年12月1日(つくばサイエンス・インフォメーションセンター(つくば市吾妻))で行われた。

同研究会は、つくばの建築の魅力や市民に伝え、共有することを目指している。7回目となる今回のシンポジウムは、つくばの建

筑波大学附属病院 新棟「けやき棟」完成



可動式MRIが導入された手術室

災害時の対策も

本院附属病院の新棟「けやき棟」が完成し、昨年12月26日から運用が開始されている。

新棟は、鉄筋コンクリート造りで、地下1階、地上12階建て。手術室には国内で初めて可動式のMRIを導入している。

導入するなど、最新の機器がそろった。

大規模災害にも耐えられるよう免震構造にした他、自家発電電機も備えており、停電時も電源を3日間維持できる。1階の「けやきプラザ」は、普段は同病

院の取り組みの紹介やイベントなどに使用されるが、災害時には同病院の災害対策本部にもなる。

院内には本学芸術専門学群と連携し、学生や教員の絵や書道などを廊下に展示。ロビーに設置された大型モニターにも、作品が映し出されている。

同病院では、高度先端医療を患者に提供するだけでなく、最先端の研究や次世代を担う医療従事者の育成にも力を入れている。五十嵐徹也病院長は「地域の大学病院として、トップクラスの教育や研修・研究を展開していきたい」と話す。

◆MRI 磁気共鳴画像装置。磁場と電波を使い体内の様子を画像化する装置。

課外活動団体リーダー研修会

団体間の交流も

学生支援室が主催する「課外活動団体リーダー研修会」が昨年12月8-9日に群馬県前橋市の国立赤城青少年交流の家で行われた。この研修会は、体育・文化・芸術系のサークル連合会に所属する団体の次期リーダーなどを対象に、毎年開催されている。課外活動の意義やあり方について理解を深めることや、団体の枠を超えて交流することが目的だ。今年は130の団体から200人を超える学生が参加した。

1日目には、講演会や懇親会などが実施された。講

多様さや総合性を表現 100人以上の学生集まる

来年度から新しく使用する大学紹介映像の撮影が、昨年12月から今年1月にかけて行われた。中でも2月21日には、中央図書館前の石の広場に100人を超えるエキストラの学生を集め、大規模な撮影が実施された。

当日は、本学のシンボルともいえる大学循環バスを石の広場に搬入して撮影が行われた。バスとその前面に置かれた5つのオブジェにライトを当てると、背後に飛行機の形をした巨大な影が浮かび上がるという演出があり、集まった学生が

を持って、より活発に活動をしてほしい」と話していた。研修会を締めくくった。体育会の研修会に参加しと交流できて良かった」と山田真也さん(社会学1年)は「体育会の1員として自分の果たすべき役割が分かったし、他の団体の人と交流できて良かった」と語った。

CLOVER

CLOVER (Car & LOVE for Refugee) は企画、面会、翻訳、日本語サポート、広報・渉外の5つのチームに分かれて活動するボランティア団体。

難民という言葉を聞く

難民という言葉を聞く機会が少ないと、本学では関係ないと思われる。だが、日本にも多くの難民や、入国手続きなどが不備のまま来日した人々がいる。その彼らのために活動をする本学の団体「CLOVER」が、CLOVER 難民と共に歩むユース団体だ。

CLOVER (Car & LOVE for Refugee) は企画、面会、翻訳、日本語サポート、広報・渉外の5つのチームに分かれて活動するボランティア団体。



難民達に愛を届ける

類などの翻訳を担当。日本語サポートチームは日本語の分からない外国人のために日本語を教えるプリントなどを作る。

記者はメンバー3人と共に同センターを訪ねることができた。つくば市

難民達に愛を届ける

難民という言葉を聞く機会が少ないと、本学では関係ないと思われる。だが、日本にも多くの難民や、入国手続きなどが不備のまま来日した人々がいる。その彼らのために活動をする本学の団体「CLOVER」が、CLOVER 難民と共に歩むユース団体だ。

CLOVER (Car & LOVE for Refugee) は企画、面会、翻訳、日本語サポート、広報・渉外の5つのチームに分かれて活動するボランティア団体。

面会チームは「東日本入国管理センター」(茨城県牛久市)にいる外国人収容者らとの面会、翻訳チームは難民申請の書類などについて相談する。面会チームでは、収容者の一人であるBさんが私達の面会に応じた。面会室はガラスで二つの部屋に区切られ、お互いが

からは歓声が上がった。撮影に使われたオブジェの材料は、医療器具やスポーツ用具など、本学の教員が持っている。制作に携わった鈴木絹彩さん(芸専1年)は「影が飛行機になるように調整するのが大変だったが、うまくいった良かった。プロの人とも関わって良い経験になった」と話した。

撮影の監督をした株式会社桜映画社の土井康一さんは「エキストラが期待以上の反応を示してくれて良かった。筑波大学の学生は素朴で好感の持てる人が多いように感じた」と振り返った。

完成した映像は、DVDとして関係者に配布したり、大学のホームページで公開するなど、広報活動のさまざまな場面で使用される予定。



建物に浮かび上がる巨大な飛行機の影

ん(芸専1年)は「影が飛行機になるように調整するのが大変だったが、うまくいった良かった。プロの人とも関わって良い経験になった」と話した。

撮影の監督をした株式会社桜映画社の土井康一さんは「エキストラが期待以上の反応を示してくれて良かった。筑波大学の学生は素朴で好感の持てる人が多いように感じた」と振り返った。

完成した映像は、DVDとして関係者に配布したり、大学のホームページで公開するなど、広報活動のさまざまな場面で使用される予定。

Who's Who?

4オクターブの音域を操るアカペラ歌手

さ や か

山田 清香 さん (人文4年)



澄み渡るような声で歌う山田さん

メロディーやリズム音が渦巻いていた。その中に、ひととき美しく清らかな女性の高音が……。

が渦巻いていた。その中

声の主は、山田清香さん（文4年）。つくばカピオホール（つくば市竹園）で昨年12月に行われた本学のアカペラサークル「Doo-Wop」クリスマスライブでのことだ。

無伴奏で独唱や合唱を行うアカペラ。同サークル（約100人）では5、6人でグループを結成し、一人ひとりが歌やハーモニーを担当する。

その歌唱力が認められたのが、日本最大級のアカペライベント「Japan・Acappella・Movement（JAM）」。昨年11月に都内で行われたJAM 2012には、全国から165グループが応募。

「Door Window」の2グループに所属して出場し、両グループとも最終選考まで残った。今回、最終選考は12グループしか選ばれなかったうえ、その中でただ一人「複数のグループに所属した歌手」として注目を集めた。

アカペラに魅せられた4年間
すべての経験を糧に

り抜きんでた声色は、ずっと聞いていた「歌声」と同じグループに所属するメンバーも感嘆する。

浪人時代。知り合いに誘われて聞いたある大学のアカペラ団体の歌声に魅せられた。本学に入学後、迷わず「Doo-Wop」に入部。そこで歌う喜びを見出したが、苦勞も経験した。

「100人以上のサークルで、最良」のグループを組むことは難しい。相性が良い歌声を探し出すだけ

でなく、一人ひとりの音楽に對する趣向の違いも考慮すべきだから」。人間関係に悩み、サークルをやめようと考えたこともあった。

だが、卒業を前にこう思う。「念願だったJAMの舞台に立ったときこれまでアカペラを通して出会った人々の顔を思い起こした。さまざまに出会いの中で自分の軸を模索し続けたことが、この舞台につながったと気がついた」。この世に無駄な経験など何一つない。「サークル活動はいつも私の中心にあって自分探しの原動力だった」。“有意義だった4年間を語る口元に、穏やかな笑みが浮かんだ。

卒業後も、勉強の日々が続く。「表現することが好き。だから将来この道に進もうともような道に進もうとも音楽や人との出会いを大切にすることで、他者の心を満たせたら」。

アカペラを通して紡ぎ出された経験。それは、みんなの強い女性」を育みそこで得られた豊かな感性は、今「歌」となり彼女からあふれ出す。クリスマスライブを訪れたある観客は、目を閉じて彼女の歌声に浸り、涙を流した。その頬を伝う光の筋は、この春本学を巣立つ「表現者」の新たな歩みの糧となるだろう。(望月麗々比較文化学類1年)

うちわ話

☆ 入部から引退まで、話題に事欠かなかった。おかげで大学の隅々まで探検できた気がする。今後もそんな大学新聞でありますように。(みちのくの情弱女) ▼ 「ぶらちな」動機で入部したが、副編集長として働くことに。それでも楽しく仕事できるのが大学新聞。多くの人に編集室のドアを叩いて欲しいものです。(アウトロール侍) ▼ 締切ニモマケズ、赤入レニモマケズ、徹夜ニモ停電ニモマケヌ、丈夫ナ心ヲモチ……そんな編集室が大好きでした。(接客系女子) ▼ 編集室特有の、よどんだ空気と小汚い

うちわ話

☆引退記者からひとこと☆

▼入部から引退まで、話題に事欠かなかった。おかげで大学の隅々まで探検できた気がする。今後ともそんな大学新聞でありましよう。(み)

空間を私は愛していた。引退した今でもふいに行きたくなってしまう。大学新聞万歳！(小笠原の風)▼軽い気持ちで入部した大学新聞。先輩方にあこがれて仕事し、廃部の危機(?)も乗り越え成長させてもらいました。バトンをつないで

返すと、山あり谷ありだ。時に田畑へ行くこともあれば、学内から飛び出ることも。長かった記者活動もついに最後の時を迎え感無量。高き山を越えた先、喜びや感動が待っているぞ！(にの)▼好きなこ

とだけあり、そのしわ寄せ

空間を私は愛していた。引退した今でもふいに行きたくなってしまう。大学新聞万歳! (小笠原の風) ▼軽い気持ちで入部した大学新聞。先輩方にあこがれて仕事し、廃部の危機(?)も乗り越え成長させてもらいました。バトンをつないでいって下さい。(裏巻(自称)) ▼大学新聞で2年、そしてベトナムへ。それも同僚、先輩達との時間があってこそ。皆に感謝! Hengap lai。(また会いましょう)(異国から徒然) ▼記者活動を思い返すと、山あり谷ありだった。時に田畑へ行くこともあれば、学内から飛び出ることも。長かった記者活動もついに最後の時を迎え、感無量。高き山を越えた先に、喜びや感動が待っているぞ! (にの) ▼好きなことだけやり、そのしわ寄せを押し付けたことをまず謝りたい。先輩方、三代の編集長、同僚達、そしてすべての読者に、ありがとう。(へり) ▼こういう仕事をやってみたかった、と気付いた時にはもう引退。1年間楽しかった。(すみ) だ

次号は

4月8日(月)

発行予定です

応援団 WINS「桐華祭」



団員たちの華麗なパフォーマンス

3 面へ

全日本インカレ



提供=男子バレーボール部

相手のブロックをかわし、スパイクを放つ李

8 面へ

第18回全日本ラート競技選手権大会



表彰台で健闘をたたえ合う松浦（右）と堀口（左）

9 面へ

東北3県柔道指導キャラバン



指導中、笑顔を見せる子供達と武井（右）

10 面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活